

伊勢市議会議長賞

『おじいちゃん、おばあちゃん』

まとはば じん

明野小学校 三年 的場 仁

ぼくは、お母さんに教えてもらった言葉があります。

「人は子どもで生まれ、子どもに戻る。」
です。ぼくには、九十才のひいおじいちゃんと八十九才のひいおばあちゃんがいます。耳も聞こえにくいし、時どき言っていることがわからないし、つえがないと歩けません。ぼくは、まだ子どもで、どんどん大きくなっていくのに、何で年を重ねると、おじいちゃんおばあちゃんは小さくなって、色いろと不自由になるのかがふしぎでした。お母さんと話しました。おじいちゃん、おばあちゃんたちは、長い間、一生けんめいはたらいて、子どもを育て、今までがんばってきて、そして今はゆつくりゆつくりしているとわかりました。人は、みんなこうして年をとるといふことも知りました。少しさびしい気もちになりました。お父さんもお母さんも、ぼくもお兄ちゃんもそうなるのかとわかったからです。でも一番思ったことは、こうして一生けんめいが

んばつて生きて、ぼくたちに、いのちのバトンをつないできてくれたおじいちゃんおばあちゃんに、感しやの気もちを持ってやさしくせつじつじつとじつじつとです。

「人は子どもで生まれ、子どもに戻る」
こうして、また子どもに戻っていくおじいちゃんおばあちゃんを大切にしたいと思います。ぼくのゆめは「しほうしよし」です。ぼくのお母さんもおじいちゃんも、しほうしよしです。色いろ「まっっているおじいちゃんおばあちゃんをほうりつでたすけるし」ともしています。そんなし「とをぼくもしたいです。そして今は、町でおじいちゃんおばあちゃんを見かけたら、ゆう気を出して声をかけて、もし「まっっていたらたすけてあげたいと思いました。」